



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
香川用水
阿讃トンネル下口

徳島県と香川県を結ぶ香川用水阿讃トンネルの工事は、昭和43年に始まった。昭和49年には通水および竣工式が行われた。現在は、香川用水記念公園として整備されている。

「思い出の1ページ」

本格通水が開始して38年を迎える香川用水。香川用水を身近に生活している財田町70代の男性は「香川県は年間降雨量が少なく大きな河川がないため、水不足は深刻だった。財田町は池や川から用水を取ってきたけど、水不足に悩む地域では米を作るのに、やかに水を入れて、稲の株ごとにちよつとずつ水をやって枯れを防いどつたと聞いたこともあった。田に水を入れるのも時間制限があったり、田んぼの持ち主以外の人が引き込む水の量を確認したり、自分が自由に水管理がでkindのや。『水が大切』という思いはみんな感じとつた。財田町は農家が多く、農地が生活の支えだったんで、香川用水の建設は難しい決断を下す必要があったが、最後はみ〜んな「香川県のために」との思いで建設に同意したんじゃない。また徳島に感謝する気持ちも忘れたらいかん。あの頃は津田まで自然勾配で水を流す技術力に感心したことも覚えとるなあ。

このころ一時地元の獅子舞が中断したけど、地元をもつと愛してもらい、絆を深め、地元に残ってもらおうという願いから子ども会活動として復活したんじゃない。みんなで支え合う温かく活力のある地域だった。今の時代に一番大事にせないかん部分やと思うなあ」と懐かしんでいました。



第2回瀬戸内国際芸術祭の特集

の取材に栗島へ行きました。制作途中の作品を目の前にし、言葉では伝えられない感動がそこにありました。チラシや作品の説明を読んだだけでは分からなかった美しさや作家の息づかいなどが感じられ「めっちゃええわ。絶対見に行かないかんぞ」と帰るなり熱のこもつた説明。作家の作品づくりの手伝いや展示場所の清掃など、することはいっぱい。栗島の会期の10月まであと7カ月。皆さん、ぜひ、いろいろなボランティアに参加してみてください。遠くに感じていたアートがとても身近になりますよ。